

宮崎城址



臼ヶ谷の人骨とささげられた古銭

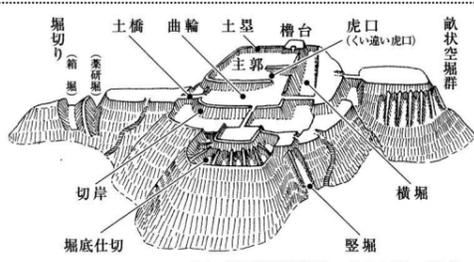
(その周囲を守るように土葬された人々と共に激しい戦いに加わった武将の一人と考えられる。)



石塁



空堀跡 (戦時中に埋められた。)



出典：千田嘉博著「城館調査ハンドブック」より一部改変

城を守る工夫

- 矢倉台 (櫓台) → 本丸の下の方
- 石塁 → 石を積み上げてつくった防壁
- 空堀 → 敵の攻撃を防ぐ
- 曲輪 ○ たて堀



- 平安時代の終わり、木曾義仲が当時の豪族宮崎太郎と共に後白河上皇の孫「北陸宮」を奉じた所。
- 鎌倉時代に起こった承久の乱では、太郎の孫宮崎定範が本城を拠点として幕府軍と戦う。
- 県下最古の山城の一つ。



どうしてこの地に

- 陸・海交通路の要地 (北陸道の要害の地：宮崎港は古くから発達し、北陸有数の良港として、上方や越後、奥州とも交易があった。)
- 東は新潟県、西は能登半島までを見張られる。
- 南面は山また山、北面は急な崖、崖下は海。越後から越中に攻め入るにはこの城の下の海岸沿いの道しかない。(軍事的に防衛に有利な地形)

室町・戦国時代～

鎌倉時代 (承久の乱・朝廷と幕府の戦い)

平安時代 (源平の戦い)

幾多の戦いの舞台

- 南北朝の争い
宮崎城をめぐる激しい争い。
臼ヶ谷では、武将の一人が中国古銭と共に葬られているのが見つかる。
- 1573年
越中(富山)を支配した上杉謙信が宮崎城を守る。
- 1583年
佐々成政が、上杉方の守っていた宮崎城を攻め落とし、境川を越えて越後領内まで攻め入る。
- 1584年
越後の上杉景勝が佐々成政の武将らが守る宮崎城を攻め、朝日町一円が戦場となる。

国境の守りとして築かれた宮崎城は、奪い合いの的として、絶えず混乱の中におかれていた。

- 江戸時代
加賀藩が国境の警備に境関所を設けて、宮崎城を廃城にする。

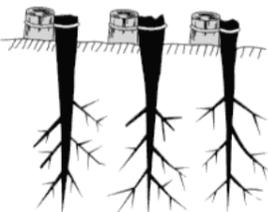
宮崎定範 (みやざきさだのり)

- 宮崎太郎の孫と言われている。
- 1221年 承久の乱のおり、後鳥羽上皇の命令を受けた官軍(朝廷軍)に参加。鎌倉幕府の北条軍と戦う。
- 信濃(長野県)大町の豪族らとともに朝廷側の大将として北陸道を守る。
- 御所を作り替えた宮崎城を拠点として、親不知のあたりに4万の幕府軍(大将：北条朝時)を迎える。

定範の地(親不知)の利を生かした戦法

逆茂木 (下の浜の道)

敵の進行する方向へ、大きな木の先端を向け切り倒して並べる。今の有刺鉄線。



↑ 敵

石弓 (上の山)

立ち木の枝を切り、上部に縄を張り木を弓のようにならせ石を飛ばす。



- 夜明けに波が静まり、幕府軍は磯を渡って攻め込む。立て直す間もなく、300余騎の宮崎軍は4万の軍に敗れる。
- 午後には宮崎城は落ち、砺波山に敗走。
- 砺波山で再戦するも敗れる。



宮崎定範の碑 (鹿嶋神社)

もし、「北陸宮」が皇位を継承していたら、宮崎は、朝日町は、富山県は、どうなっていただろう……



北陸宮の墓

木曾義仲 (源義仲)

- 源氏の棟梁。源頼朝(いとこ)と共に平家と戦う。
- 1182年
宮崎太郎に命じて「北陸宮」を宮崎城に住まわせる。
「北陸宮」を天皇にし、頼朝に対抗して実権を握るねらい。
- 1183年
・ 平家の総大将・平維盛とくりから峠で戦い、勝利する。
・ 平家を京都から追い出す。
・ 「北陸宮」の皇位継承を迫るが対立する朝廷側に敗れる。
- 1184年
「栗津の戦い」で頼朝の命を受けた源義経らに滅ぼされ、敗死。

北陸宮

- 以仁王(後白河上皇の皇子)の遺児
- ※ 以仁王
1180年、平清盛によって父・後白河上皇が幽閉されたことに怒り、「平家打つべし」の命令を源氏に下す。
- 1182年、平家の追撃を避けるため、木曾義仲の命を受けた宮崎太郎によって宮崎城に移住する。
- 義仲によって皇位継承の候補となる。
- 皇位につけず、義仲も敗死し、余生を京都で過ごす。

宮崎太郎 (みやざきたろう)

- この地方に勢力を持つ豪族・宮崎党のかしら。
- 1182年・・・木曾義仲の命令で「北陸宮」を宮崎に迎え、御所を作って守る・・・宮崎城の始まり
・ 重要な人物を預かれる太郎の力の偉大さ
・ 当時の人々の太郎に寄せる信頼が分かる。
- 「くりから峠(砺波山)の戦い」で、木曾義仲の軍に加わって手柄を立て、平家の大群を打ち破る。
角にたいまつを付けた牛の大群を放す作戦。(大人数のように見せかけるねらい)
軍をいくつにも分けて潜ませ、暗くなったのを見計らい一気に関の声をあげて攻め込み、くりから峠に落とす作戦
- 「北陸宮」の皇位継承がなくなり、義仲が源義経らに滅ぼされたため、信州(長野県)に逃れ、隠棲。

宮崎党とは

- 12世紀中頃、宮崎地方を中心に勢力をもった、150騎ばかりの武士団
かしら・・・宮崎太郎
弟・・・南保次郎
弟・・・宮崎三郎
長男・・・入善小太郎
他・・・佐味太郎



宮崎太郎の供養塔

当時の武士は、本籍地の地名をとって名字にすることが多かった。